

「本物」を求めて応援

初心

「政治家新事情(44年間を顧みて)」

栃木県知事 福田富一



月間『茶の間』(株式会社 宇治田原製茶場発行)誌の取材で=栃木県庁

2026年新春号

令和8年1月発行
年2回刊
題字/福田富一 書

〈発行所〉
福田富一
暮しと政治研究所
〒320-0026
宇都宮市馬場通り2丁目1番12号
TEL 028(633)1111
http://www.tomikazu.com

政治家を志し、その覚悟を内外に示すため、県職員を退職し、「2級建築士事務所」と「行政書士事務所」を開設し、後援会活動との2足のわらじの生活を始めた。

後援者から「結婚しなければ社会的に認められない」との助言があり、見合いを繰り返す。妻と出逢った。

私は今市市現日光市出身、妻は鹿沼市出身、選挙(宇都宮市議選)は骨が折れるな」と言われながらも、結婚、貸家での生活と子育て。二男に「ぼくの机の置き場所がない」と言われ、バブル期に中古住宅に引っ越した。

宇都宮市議選後、県議選、宇都宮市長選、知事選と戦い、12勝1敗(平成2年の県議補選に落選)。

子育て等の家庭生活と、地盤・看板・カバンを整えていくことは苦難の連続だった。

自分の住む地域の皆さんへの顔出し、各地区後援会ごとの挨拶廻りも重要視した。1日に100軒前後挨拶することもざらである。

各地域ごとに知り合いを頼り、組織の立ち上げを成し遂げるには、時間と労力と信頼と、政治家としての魅力や将来性も吟味される。地元有力政治家がいる場合はなお難しい。それを繰り返し選挙区全体に拠点づくりを進めることに力を割いてきた。

選挙告示前には後援会入会者への御礼の電話や交友会名簿を頼りに電話作戦も行ってきた。「なんで俺の家の電話番号を知っているんだ!」後援会入会者宅であっても「署名した覚えはない」などとお叱りを受けることも多かった。

これからの選挙や後援会活動を考えると、風頼みのSNS活用の中戦で運良く当選することはあるかも知れないが、毎回風が吹くことはない、それではと思うが答えは1つ、やっぱり人を頼ること、すなわち原点に戻り、信頼関係にある人たちが中心の理想の組織を作りあげ、そこから同心円を拡大していくしかない。

私の場合「知事になる」が目標だったので「地盤」となってくれた皆様と協議を経て、私の「看板」づくりとその掛け替えを共に進めてもらえた。

今日、政治家を目指す人の中には、組織づくりが苦手、またはできない人も多いようだ。看板は上手に掛けているし、掛け替えも上手な人も多くなっている。

しかし活動資金の確保のために努力しているとは言い難い。後援会活動も機関誌の発行も含め、有権者との日頃の触れ合いは不足気味ではと思う。加えて選挙を迎えるに当たっては、個人情報保護の壁から

《看板》

《選挙とその準備》

《やっぱりを頼ることが重要だ》

《カバン》

《政治活動新事情》

《やっぱりを頼ることが重要だ》

栃木の魅力を発信



通行料値上げ、理解求める

とちぎ元気フォーラム in日光

福田富一知事が各地に出向いて県民と直接対話する「知事と語ろう!とちぎ元気フォーラム」が9月13日、日光市役所で約60人が参加して開かれ、観光・地域振興・ブランド化や男女共同参画などについて活発に意見を交わした。福田知事は県政の話題として、2030年の全国植樹祭招致に触れ「県内のどこでや

るかはこれから決めることなので、日光市も適地があったらぜひ申請を」と呼びかけ。日光宇都宮道路の料金引き上げについては「トンネルの劣化がひどく、安全対策のため」に相当なお金が必要になった」と理解を求めた。

意見交換で福田知事は、同市内の携帯の電波状況改善などへの県の姿勢を説明した。

友好と経済交流・継続確認

ベトナム・台湾訪問

経済協力や観光誘客の促進に向け、福田知事は12月15〜19日の5日間の日程でベトナムと台湾を訪問し、トップセールスを行った。

訪問団は福田知事や県議、県職員、関係団体・企業の代表者らで構成し、全行程で延べ56人が参加した。

16日、首相府でフアム・ミン・チン首相と会談し(写真上段右)、友好関係や経済面での交流を継続していくことを改めて確認した。両者の会談は4回目。同国内で今年、省庁や地方行政が再編されたことも考慮し、福田知事は友好関係と経済交流の継続を求めた。チン首相は「相互に均衡の取れた利益をもたらすこ

とが重要だ。地方自治体との協力拡大の可能性を検討していく」などと応じた。訪問団は同日、教育機関の視察や中央政府の要人との会談を重ねた。レー・ホアイ・チュン外相(写真上段左)からは、イノベーションやデジタルトランスフォーメーション(DX)などの新技術、教育といった分野の交流を強化したいとの意向が示された。夜には同国政府や現地企業・団体の関係者ら50人をレセプションに招き、地酒やとちぎ和牛を振る舞うなどし、本県の食や観光、産業の魅力をPRした。

17日、福田知事とベトナム・フット省の幹部が会談した。県は2021年11月、ビ

ンフック省(当時)と経済交流の覚書を締結したが、地方行政の再編でビンフック省がフット省へと統合したため、同様の覚書を再締結した(写真下段右)。現地の工業団地や企業への訪問も行った。

18日、台湾・高雄市の陳其邁(チンキマイ)市長と初めて会談し(写真下段左)、経済面や文化的な交流促進を確認した。福田知事は陳市長との会談で、半導体企業などの本県誘致への協力を依頼した。陳市長は「今回の訪問を契機に、より一層、友好関係を深めたい」と応じた。福田知事は同市内のハイテク産業拠点「南部サイエンスパーク高雄園區」で半導体関連企業を視察した他、美麗島駅で魅力発信イベントを行った。

訪問団は19日夕、5日間の日程を終え帰国した。

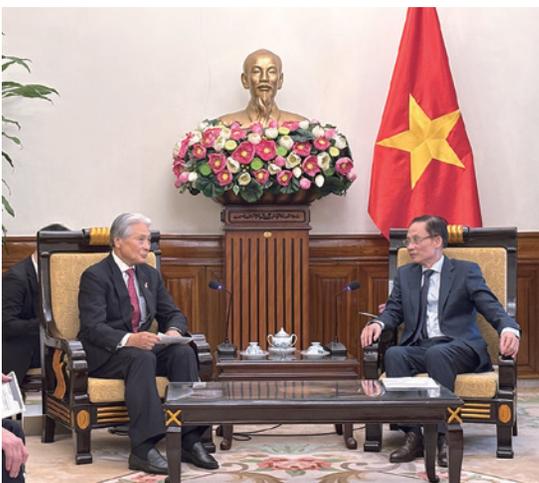
人口減少は『静かなる有事』

とちぎ元気フォーラム in真岡

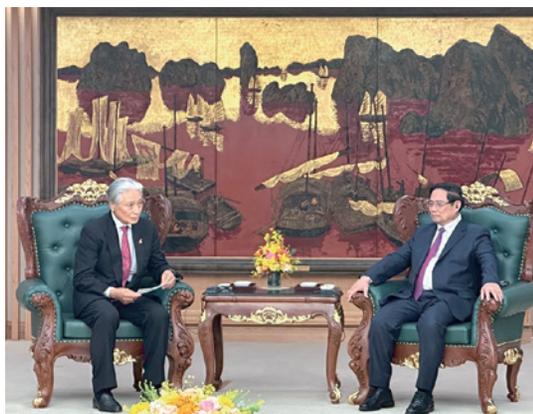
福田知事と県民が直接対話する「知事と語ろう!とちぎ元気フォーラム in真岡」が10月25日、真岡市石島の二宮コミュニティセンターで、市民ら約50人が参加して開かれた。福田知事は人口減少や少子高齢化のほか、事前アンケートで多くの意見が寄せられていた子育てや医療、福祉などについて、県の見解や取り組みを説明した。

人口減少について、県の合計特殊出生率が過去最低を更新したことに触れ、「『静かなる有事』と捉えている。人口減少克服宣言を行い、官民連携で取り組むことにした」と話した。参加者からは水害対策や環境保全、結婚支援など意見や要望が寄せられ福田知事は一つ一つ丁寧に答えた。

賑わい創出 飛躍の年に



チン首相(右)と会談する福田知事=12月16日、ベトナム外務省



ベトナムのチン首相(右)と会談する福田知事=12月16日午後、ベトナム首相府



台湾・高雄市の陳市長(右)と福田知事=18日午後、台湾高雄市



フット省の幹部(左から2人目)と覚書を再締結した福田知事=12月17日、フット省



このページは、下野新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞、の記事を抜粋させていただきました。

地方創生へ意見交換会 首相と11県知事



首相との意見交換後記者団の取材に応じる
福田知事(9月12日午後、官邸)

福田知事は9月12日、首相官邸で行われた地方創生に関する首相と11県知事の意見交換会に出席した。

各知事から地方の実情を聞き、年内に策定する地方創生の総合戦略に反映する狙い。

福田知事は、結婚したい人が結婚できる日本を国を挙げてつくること、地方への新たな人と企業の流れを確かなものとする、中学生までの学校給食の無償化を国の財源で責任を持って実施することなどを求めた。会談後、福田知事は「石破首相に感謝を伝え『これからも地方創生の応援団長として先頭に立ってほしい』とお願いした」と述べた。

「二地域居住」推進を

関東地方知事会

東京都、茨城県、栃木県、群馬県、

埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県、静岡県、長野県の10都県で構成する関東地方知事会は10月29日、茨城県つくば市で定例会議を開き、地方分権改革や「二地域居住」の推進など12項目を国に要望することを決めた。

「地域の多様な主張と現場の切実な声を新しい内閣の政策決定に反映させる事が重要だ」と会長の大井川茨城県知事。二地域居住では地域に継続的にかかわる人が登録する「ふるさと住民登録制度」の導入支援や、関連データの整備などを国に求める。福田知事は「富裕層だけでなく子育て世代で所得が低くても可能な仕組みを考えたい」と発言。空き家を活用した滞在コストの削減策や交通費の負担軽減措置などを例に挙げた。

9月19日 「秋の交通安全県民総ぐるみ運動」オープニングセレモニー
10月1日 コジマサイエンスパーク(県子ども総合科学館)で完成記念式典
10月16日 東京都内で「県産銘柄牛懇談会」
10月30日 とちぎ企業立地・魅力発進セミナーin大阪
11月10日 沖繩「栃木の塔」で式典
11月17日 知事と語ろう!とちぎ元気フォーラムin能開大
11月29日 知事と語ろう!とちぎ元気フォーラムin小山/外国人に地域ルールや文化を順守してもらうための啓発活動を進める。
12月5日 宇都宮市のオリオン通り周辺で年末特別パトロールを実施
「県民が穏やかな生活を送れるようパトロールしていきたい」と挨拶。



大田原市の那須ファームビレッジを訪れ、馬と触れ合い癒される福田知事(10月27日)

東奔西走の日々

- 8月1日 都内で「とちぎ企業立地・魅力発進セミナー」/本県の優れた立地環境を首都圏などの企業にPR。
- 8月5日 市貝町で芳賀地区プロジェクト市町村長会議/医療支援などを知事に要望。
- 8月7日 内閣府を訪れ、本県に防災庁設置を要望/物理的優位性などPRし、大規模災害時のバックアップ拠点にふさわしいと知事。
- 8月18日 全国知事会の脱炭素・地球温暖化対策本部長として環境省や国交省など4省に提言書を提出/大規模で安定的な財政措置を求め。
- 8月22日 知事と語ろう!とちぎ元気フォーラムin佐野高、佐野高附属中/まちづくりなど知事と意見交換。
- 8月31日 県と宇都宮市、大地震想定し防災訓練/「我が家の防災、避難について確認するきっかけになれば」と福田知事。

会議に先立って宇宙航空研究開発機構(JAXA)筑波宇宙センターを視察する福田知事(左から3人目)



国道4号、スマートIC整備

国交省に要望書

福田知事は12月24日、国土交通省を訪れ、国道4号やスマートインタ

ーチェンジ(IC)の整備促進などを求める要望書を佐々木副大臣に手渡した。高橋克法参院議員が同行した。要望書は県のほか、福田知事が会長を務める協議会や同盟会として実施。財務省と内閣府にも提出した。要望書では、矢板大田原バイパスの早期工事着手といった国道4号の整備推進、新4号国道の機能強化、スマートIC設置事業の推進、国による直轄権限代行を進めている国道121号の整備推進などを求めた。要望後、福田知事は「国土強朝化などは進めていかなければならない大きなテーマ。必要な予算の確保に向け手応えを感じられた」と話した。



佐々木副大臣(左)に要望書を手渡す福田知事(24日、国交省)

地域共生の再エネ推進を

政府主催全国知事会議

11月26日に開かれた政府主催の全国知事会議で、全国知事会の脱炭素・地球温暖化対策本部長を務める福田知事は、地域脱炭素の実現に向け、地域との共生が図られた形での再生可能エネルギー導入拡大を求めた。福田知事は、必要な法令手続きを経ない太陽光発電関係の開発行為が発生している現状を指摘。生態系への悪影響を懸念する声が強まり、建設工事が中断する事態となった北海道・釧路湿原周辺での大規模太陽光発電所(メガソーラー)建設なども例示した。「再エネに対する地域住民の不安は高まっている」と危機感

を示し「設置状況など地域の実態をしっかりと把握し、早期に実効性のある対応を行ってほしい」と要望した。



政府主催の全国知事会議で発言する福田知事(11月26日、総理官邸)

「若者会議」で魅力ある県に

「とちぎ若者会議」始まる

福田知事と若者が意見を交わす「とちぎ若者会議」の初会合が8月23日、県庁で開かれた(左写真)。昨年の知事選で福田知事が掲げた公約の一つで、若者の視点や柔軟な発想を県の施策に反映させる。



2年間の予定で、本年度は県内13市町と「大学コンソーシアムとちぎ」から推薦された18・29歳の計16人が委員を務める。福田知事は「意見やアイデアは25市町とも共有し、県庁でも検討して施策に反映することも考える。年齢や立場を超えて自由に発表してほしい」と呼びかけた。会議は10月と12月にも開催された。

委員からは「女性の働く場所が少ない印象で、Uターン就職ができない」「移住者が宇都宮など交通の便がいい自治体に集中している」などの意見が出され、福田知事はそれぞれの提案に所感を述べ、「皆さんの声を施策に生かして未来を共につくっていききたい」と応じた。

「知事と語る会」



し始めた。全国知事会では、在職日数は1番長いが年齢的には3番目であること。群れず、自然体で仲間を作るようにしていること。お客様は立って迎え挨拶をする、「出迎え3歩、見送り7歩」「出迎えよりも見送りをより丁寧、名残惜しさを込めて行う」という立ち振る舞いが72歳になった自分の役目だと続けた。県立総合病院を作る検討会が始まったこと。とちぎ未来大使は現在400人で、最近「ぜひお願いします」と言われるようになったことなど、直近の県政の話題が続いた。

11月17日(月)「知事と語る会」がコンセーレを会場に70余名の参加を得て2年ぶりに開催された。一昨年11月17日に6期目当選を果たした福田知事は、「昨日の我に今日は勝つべし。」を胸にしっかと公務に取り組んでいると話

世界陸上ハンガリー選手団を歓迎

梨などを贈呈した。

9月13日に開幕する陸上の世界選手権に向け、宇都宮市西川田4丁目のカンセキスタジアムとちぎで事前キャンプを実施しているハンガリー選手団の歓迎セレモニーが8日、同所で行われた(下写真)。

セレモニーには福田知事やハンガリーのオルネル・バーリン・アンナ駐日特命全権大使らが出席した。福田知事は「大会で最高のパフォーマンスを発揮できるようにサポートする」と歓迎し、選手団に県産のシャインマスカットや



今年の漢字は「賑(にぎわい)」

下野新聞社の取材で26年をどんな1年にしたいか漢字1文字で問われた福田知事は「賑(にぎわい)」を選んだ。その心は、新型コロナウイルス禍を経て、県内の宿泊数が24年はコロナ前を越えた。



一方、観光客入り込み数はコロナ前を越えられなかった。本県の良さも十分理解が進んでいるので、26年は観光客入り込み数1億人と宿泊数を更新する年にしたい。BCP(事業継続計画)や首都直下地震などのリスクを考慮して、本県や北関東への企業立地意欲も旺盛だと思うので、企業誘致も加速させていきたい。これらの取り組みを通して「賑わい」のある1年にしたいという思いで、今年の漢字に「賑」を選んだ。

「福田家の茶の間」

元旦は夫と共に皇居での「新年祝賀の儀」に参列した。正殿「松の間」に入る前の休所には招待された各県知事夫妻も参集しており、村井宮城県知事夫人から「6期目は福田知事だけでなく2人になりました」と挨拶された。和気あいあいとした雰囲気。「ここはすごいね」と夫が言う。「知事会はまだまつているから」と平井鳥取県知事。そんなやりとりを見て、知事会での夫のベテランとしての存在を感じた。



昨年10月、犬を飼っている人は、飼っていない人と比較して、認知症になるリスクが40%低い」とする学術論文が発表された。(本当かな?) 日常的な運動習慣や社会参加は認知症に限らず、フレイルや要介護になるリスクが低いことはよく知られているが、毎日の散歩(運動習慣)や犬友達との触れ合い(社会参加)が良いようである。1日でも長く一緒に過ごせますようにとまーくんと散歩している。

編集後記

新聞スタッフ

み返してみると、昨年の知事も多忙な日々を送ったことが記事の多さからも見て取れる。昨年12月にはベトナム・台湾を訪問し、本県の魅力発信を積極的に行った。福田知事は6期2年目を迎えてもなお全力で県政の課題解決に邁進している。

「初心」はこれからも知事の県政への取り組みや思い、日々の出来事などを分かり易くまとめて皆様にお届けして参ります。どうぞ一読下さい。

◇福田富後援会総連合会事務所
◇福田富一暮らしと政治研究所
宇都宮市馬場通り2-11-12
電話 028(6333)1111
FAX 028(6333)1110